

## 投資家の皆様へお知らせ

### 世界銀行の取り組み

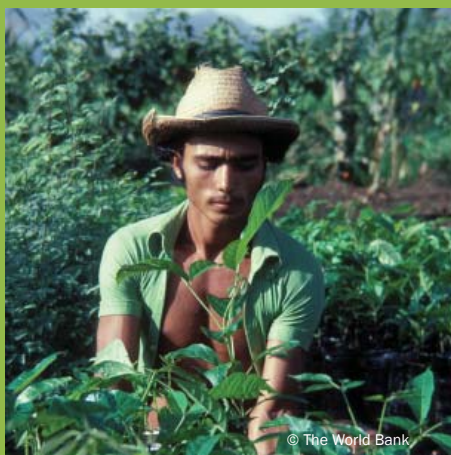


#### 世界銀行と日本: 「愛知用水事業」

- 1957年、長年干ばつや水不足に苦しんでいた愛知県知多半島で農業、産業、生活のために安定した水資源を供給しようと、水力発電と水を供給する愛知用水プロジェクトが日本政府と世銀の協定によって開始されました。(詳しくは2ページをご覧ください。)

#### 現在行われているプロジェクト事例:ブラジルでの治水事業

- 「愛知用水プロジェクト」と同様に、世界銀行は現在も灌漑や農村開発プロジェクトに取り組んでいます。ブラジルのミナスジェラスでは、水の供給が不安定なため、市民生活に深刻な影響がもたらされています。世銀の資金支援と各種技術供与による用水・農業プロジェクトは、9万3000世帯もの生活の向上に役立っています。(詳しくは4ページをご覧ください。)



### Q&A

**世界銀行の年間資金調達額はどのくらいでしょうか?**

世界銀行(正式名称:国際復興開発銀行—IBRD)は、世界で最大の債券発行体のひとつです。また最も頻繁に債券発行を行っている発行体のひとつでもあり、年間数百におよぶ世銀債を発行しています。2009年度(2009年6月期)には、世界銀行は総額440億米ドル相当の世銀債を発行しました。

**世界銀行の格付けは?**

世銀債は40年以上にわたってMoody'sやS&Pなどの主要格付機関から、最高の格付であるAAA格が付与されています。

**日本での資金調達額はどの程度の規模ですか?**

平均で年間70億米ドル相当額を日本の個人投資家や機関投資家より調達しています。

**資本市場から調達した資金を世界銀行は何に使うのですか?**

世界銀行は人材開発、社会開発やジェンダー問題などの分野における世界最大規模の国際開発金融機関であり、さらに環境問題事業に対する最大の資金供給機関でもあります。世界銀行が資本市場で調達した資金は、途上国や新興国の貧困削減と人々の自立を実現するための各種プロジェクトへの貸出に活用されます。

#### 世界銀行の新たな取り組み: 地球温暖化問題

- ここ数年間、世界銀行は地球温暖化問題に対する認知度を高めると同時に新たな金融手法の開発を進め、更なる温暖化を防止し、既に発生している二次災害に対応するため、様々なプロジェクト資金の調達を行っています。(詳しくは3ページをご覧ください。)



# 世界銀行と日本： 愛知用水プロジェクト

日本は1952年8月に世界銀行に加盟し、第二次世界大戦の被害から復興するために、世銀から多額の資金の借入れを行いました。1957年、長年干ばつや水不足に苦しんでいた愛知県知多半島で農業、産業、生活のために安定した水資源を供給しようと、水力発電と水を供給する愛知用水プロジェクトが日本政府と世銀の協定によって開始されました。このプロジェクトは、木曾川上流に牧

尾ダムを建設し、農業開発や工業の発展には不可欠な上下水や工業用水を供給することを目的としていました。愛知池、松野池、三好池等の溜池、岐阜県の木曾川から知多半島南端に至る112kmの幹線水路と、幹線水路から分岐して水を供給する1000kmもの支線水路の全ての建設が、わずか五年で完成しました。

## 愛知県の中学生在 が世界銀行東京 事務所を訪問

2009年6月10日、愛知県の豊田市立竜神中学校と豊田市立高岡中学校の生徒8名が、修学旅行中の企業訪問研修として世界銀行東京事務所を訪問しました。世界銀行の「銀行としての役割」と「日本とのかかわり」について、有馬良行・世界銀行財務局駐日代表と柳美佐・世界銀行財務局フィナンシャル・アシスタントから説明を受け、生徒たちは国際機関の話に興味深く聞き入っていました。偶然にも竜神中学校出身であった柳が、財務局の業務内容、資本市場部で調達した資金が世銀加盟国である途上国支援に活用されること、支援プロジェクトの事例、戦後の日本が世銀より借入をした事例などを説明し、生徒達は特に地元・愛知県の「愛知用水プロジェクト」に強い関心を示しました。

世銀事務所を訪れた竜神中学校の生徒から後日届いたお手紙をご紹介します。

世界について知りたいと思い、今回の訪問先を選んだ世界銀行でしたが、実際に事務所を訪問させていただきお話を聞かせていただいて、国際社会における世界銀行の重要さがよくわかりました。日本という恵まれた国で暮らしている私たちは、世界には貧困などで苦しんでいる人たちが沢山いるということを忘れがちです。しかし、戦後の復興の際、世界銀行に助けられた私たちが次は途上国のために尽くさなければならないと思いました。

世界銀行東京事務所訪問の際、当行財務局・柳美佐(左奥)の話を聞く愛知県の中学生たち

## 地元住民の熱 意が実現させ た用水事業

愛知用水の建設を求める運動は、60年以上前、知多の農民・久野庄太郎さんと農業学校教諭の浜島辰雄さんのアイデアをもとに始まりました。久野さんは1947年(昭和22年)の大干ばつを契機に、木曾川から知多半島に水を引くことを思い立ち、農村同志会などの農業団体に働きかけ、用水路建設のための運動を展開しました。かねてより同じ構想を描いていた浜島さんは、新聞記事でこの事を知り、すぐに久野さんのもとに駆けつけました。意気投合した二人は早速現地調査を始め、愛知用水概要図(写真参照)を作成しました。

その後も、地元農民や市町村、行政に対し愛知用水建設の必要性を訴え続け、1948年(昭和23年)、農林水産省(開拓局)に陳情した浜島さんと久野さんは、愛知用水事業には最新の建設技術や、国内調達が難しい膨大な費用が必要だと知りました。幸いなことに、用水建設運動の支援者であった当時の森信蔵半田市長は戦前、米国で記者経験があり英語が堪能でした。当時の吉田茂総理の協力によって1950年、米国視察団長として渡米した際に世界銀行・ガーナー副総裁との面談が実現し、愛知用水の趣旨と理想を記した資料を手渡し、世銀借款を申し入れたのです。その後数回に渡る世銀の現地視察や調査が行われ、1957年、ついに愛知用水プロジェクトのために700万米ドルの貸出と技術提供の借款協定が調印されました。

用水建設プロジェクト開始前の日本の食糧(主に米、魚、野菜)自給率は80パーセントで、不足分は輸入によって賄われていました。1957年までの人口は9千万人で、年間550万トンもの食料が輸入され、政府負担額は6億米ドル相当に及びました。1965年までに人口は1億人に達すると



愛知用水概念図を背景に写真に納まる、有馬良行・世界銀行財務局駐日代表(左)と浜島辰雄さん

予想され、日本の食料生産量が増加しない限り、食糧不足は深刻化すると懸念されました。自給率をさらに上げなければ近い将来、食糧不足に見舞われる——生産地域への潤沢な水資源確保は重要課題でした。

愛知用水公団の設立や世銀からの貸出を含む各種資金により、知多半島の農業生産量は予想以上に増加しました。愛知用水建設後約50余年経った今、愛知用水は農地の開拓だけでなく、温室栽培や果樹園、家畜業なども可能にし、地域の発展に不可欠な用水となりました。この地域の農業生産高は1963年当時、255.7億円規模でしたが、1999年には708.5億円に達しています。

また、名古屋に近い76ヶ所もの鉄鋼業や化学業、その他の工場への工業用水も供給されました。知多半島における工業生産は1963年当時、総生産額ベースで3259億円規模だったものが、1999年には3兆8650億円まで拡大しました。

© The World Bank

© The World Bank

© The World Bank

# 世界銀行の取り組み 地球温暖化問題

## 温暖化により既に発生している問題への対応

気候変動枠組条約(UNFCCC)に基づき、京都議定書締約国の途上国が地球温暖化により受けている被害に対応するプロジェクトやプログラムに資金を供与する適応基金が設立されました。

同基金は全ての排出権取引から一定の排出権を割り当てられ、それを効率的に市場で売却して資金化し、各種プロジェクトに活用される仕組みとなっています。世界銀行は当該基金の受託機関(トラステー)となり、世界銀行財務局が同制度に基づき受託される排出権の管理ならびに市場での売却を管理しています。

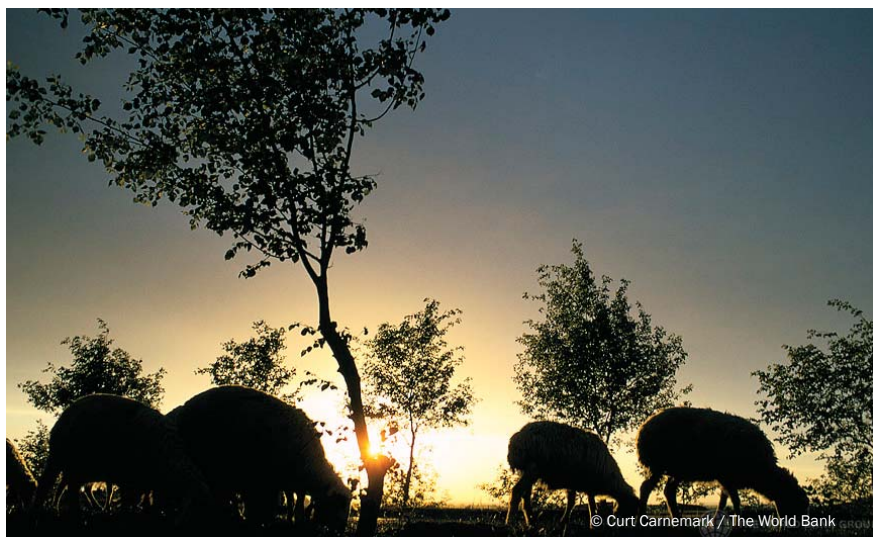
世界銀行初の排出権売却取引は2009年5月に実行され、およそ200万トンもの排出権を市場で売却しており、途上国の温暖化問題に取り組む為の同基金のために約3600万米ドルを調達しました。

## 災害リスクに対応するプログラム

世界銀行は2009年10月、各種自然災害リスクを対象とする複数のCATボンド発行に対応する「マルチキャット・プログラム」を実現しました。これは、複数の国の政府や公的機関が様々な自然災害時の損害を補完するために国際資本市場を活用するものです。

従来では、単独の国々がそれぞれ自国領土の単独災害を対象としたCATボンドを発行していましたが、このプログラムでは複数の国や公的機関が発行する、数々のCATボンドを一元管理することで、自然災害リスクをより広範囲に、より幅広い投資家層によって効率的にカバーすることが可能になりました。これは、自然災害発生時に大きな損害を被る可能性の高い複数の途上国政府が、一連の自然災害損失保険を国際資本市場で取引するものとしては、史上初のプログラムです。

最初にこのプログラムを利用したのは、メキシコ政府です。2009年10月、特定地域における地震とハリケーンという複数の災害発生時の損害を補償するCATボンドを発行しました。



## 中国における地球温暖化防止プロジェクト

### 再生可能エネルギー普及プログラム

中国では、重工業の急速な発展に伴い電力消費量が急速に増加しており、2000年から2005年にかけて、前年比倍以上のペースで拡大しました。そして、必要なエネルギーのほぼ70パーセントを温暖化ガス排出量の多い石炭発電に依存しています。世界各国が温暖化問題に取り組む中、中国のCO<sub>2</sub>

排出量は、この6年間でほぼ2倍に膨れ上がりました。

世界銀行の再生可能エネルギー普及プログラムに基づいて、中国政府は現在、再生可能エネルギー資源を活用し、より効率的な発電を実現しつつあります。風力やバイオ燃料発電プロジェクトに成功

し、再生可能エネルギーを導入し始めた中国。資金調達面で直接的な恩恵が得られるだけでなく、税優遇など間接的なメリットもあることが投資家や企業に認知され、地球温暖化防止活動へのより積極的な取り組みが期待されています。

# 現在行われているプロジェクト事例



## ブラジルでの治水事業 農村支援プロジェクト-ミナスジェラス

世界銀行は現在も、愛知用水プロジェクトと同様の灌漑や農村開発プロジェクトに取り組んでいます。ブラジルのミナスジェラスでは、水の不安定な供給が、農業や雇用など市民の生活に深刻な影響を及ぼしています。

世界銀行の貸出を含めた資金支援と各種技術供与により、このような農村地域において2000ものプロジェクトが実行さ

れており、9万世帯以上の生活が向上しています。

世界銀行の支援のもと、ブラジルの農家は安定的な水資源である井戸水を使い、とうもろこしや豆類、バナナなどの伝統的な作物の栽培を続けています。また、販売単価の高い作物の栽培が可能となり、地元ではより安定した雇用と収入が得られるようになりました。

© The World Bank

## インタビュー 有馬良行

### 世界銀行財務局 駐日代表

**近年の世界経済の変化に対応するために、世界銀行の資本市場での資金調達活動はどのように変わりましたか？**

金融危機を契機に、世銀加盟国である途上国からの資金借入需要が増加し、途上国への貸出金額が増えたことで、2009年度の資金調達額は、2008年の約3倍に増加しました。世界経済に回復の兆しが見え始めている一方で、途上国は引き続き金融危機の余波にさらされており、世銀の資金調達額は当面の間は高水準で推移するものと予想しています。

**世界銀行と日本の関係はどのように発展してきたのでしょうか？**

日本と世界銀行には長い歴史があり、今日に至っています。日本は1952年に世界銀行に加盟し、1950年代から1960年

代の間、31件のプロジェクトに総額約8億6300万米ドルもの資金を世銀から借り入れました。日本はわずか13年間で世銀からの資金を基礎として著しい復興と躍進を遂げ、1966年に最後の借入れに調印し、世界銀行からこれ以上借入を行うことができない「卒業国」となりました。以降、日本国政府は単独二位の出資国として、逆に資金を世銀に提供して頂いております。また、40年もの間、日本の機関投資家や個人投資家の皆様に世銀債の購入を通じて、世銀の途上国向け貸出資金を、世界銀行にお預け頂いております。世界銀行の資本金ならびに負債の両方を支えて頂いているという点で日本は大変重要な国の1つとなっています。

**世銀は世界各国の様々な通貨建の世銀債を発行していますが、日本の投資家のために起債する際、通貨はどのように決定されるのでしょうか？**

基本的には、投資家の需要にお応えして、発行通貨を決めます。しかし、日本円に対して為替の変動が著しく激しいと思われる通貨建の世銀債の発行は原則回避しております。こうした方針の下、例えば2009年度には、米ドル、ユーロ、豪ドル、ニュージーランドドル、南アフリカランド建の世銀債を個人投資家向けに発行致しました。

**世界銀行東京事務所はどのような活動をしているのでしょうか？**

世界銀行東京事務所は1970年に開設され、現在では日本の人々に世界銀行の活動をもっと知ってもらい、日本とのパートナーシップを強化することを目標に活動しております。日本の資本市場での世銀債発行件数は年間数百に及ぶこともあり、IR活動は極めて重要な業務の一つです。世界銀行財務局(トレジャリー)は東京事務所設立当初から日本の投資家の各種ニーズに対応して参りました。今後も多くの日本の皆様が世銀についてご理解いただき、世銀の開発支援活動にご協力いただけるように日本でのIR活動を強化していきたいと考えております。



電子メール [seginsai@worldbank.org](mailto:seginsai@worldbank.org)

ファックス 03-3597-6695

住所  
〒100-0011  
東京都千代田区内幸町2-2-2  
富国生命ビル10階  
世界銀行東京事務所

世界銀行財務局 日本語ホームページ  
<http://www.seginsai.org>

World Bank Treasury website in English  
<http://treasury.worldbank.org/capitalmarkets>